

CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

<http://ifcc.jp/cubapon.htm> 郵便振込口座 00170-2-195919

NO34

2009

6月

東京都新宿区山吹町333

辻ビル405 IFCC気付

TEL: 03-3268-4387

FAX: 03-3268-6079

E-mail: jvccpf@mail.plala.or.jp

革命50年を迎えて

◆キューバ共和国国家評議会より『連帯大勲章』を授与されました。これは I C A P (キューバ諸国民友好協会) の提案を受け、去る2008年6月17日、国家評議会議長ラウル・カストロ・ルスの署名によって決議されたもの。授与式は2月7日、在東京、キューバ大使館において行われ、CUBAPON幹事など列席の下、フェルナンデス・デ・コシオ大使より、「私は大きな満足をもって、本日ここにキューバ共和国国家評議会に代わり、キューバとの友好グループ「CUBAPON」への「連帯大勲章」代表の君島さんにお渡し致します」と君島一字代表兼事務局長に手渡されました。



キューバ共和国国家評議会は、その権限を行使し、I C A P (キューバ諸国民友好協会) からの提案を受け、以下の決議を行った。

決議4327号

その一、 キューバ共和国「連帯大勲章」を日本の友好団体日本キューバ連帯委員会 (CUBAPON) 殿に授与する。
これは我々両国民間の友好と協力の絆を深めることに貢献した数多くの連帯活動への積極的な参加に感謝して、さらにキューバ国民とキューバ革命の大義への兄弟的支援の証にたいして、授与するものである。

その二、 同決議による同団体への勲章伝達は、キューバ諸国民友好協会の準備する機会に、厳粛なる式典を持って行うものとする。

2008年6月17日、ハバナ市革命宮殿にて、
キューバ共和国国家評議会議長
ラウル・カストロ・ルス

◆7月25日開催

「継続するキューバ革命50周年連帯の集い」へのご参加を

CUBAPONは今年で結成15周年を迎えることになりました。くしくもキューバ革命50年の年でもあります。

『連帯大勲章』授与の報告会を兼ねてささやかな「連帯の集い」を開催したいと思います。



勲章授与式にて (2月7日、キューバ大使館)

期日: 7月25日 (土) 午後1時~4時

内容: I部 ①CUBAPON総会

②「レポート〜キューバと中南米情勢」 富山栄子・国際交流フォーラム代表

II部 友好フェスタ〜キューバ音楽ライブとともに〜

出演要請 アレキサンダー・ラボルテ・パドロン、あい御影、来日中のキューバミュージシャン

場所: 日本教育会館内9F (東京神田一ツ橋) ※詳細は、別添。

◆第一回全国キューバ連帯集会、開かる。

ICAP（諸国民友好協会）アリシア副総裁の来日にあわせて、5月23日、キューバとの友好活動に参加している諸団体、個人が参集し、表記集会（東京）が開かれました。

また、アリシア副総裁は、滞在中の5月25日、CUBAPONと会談を持ちました。この席で、代表委員の一人である鎌田篤則氏（IFCC国際友好文化センター事務局長）に『連帯認定証』が贈られました。

◆850人が集った5・9キューバフェスティバル（埼玉・坂戸市）

前号で、報告してきました「キューバフェスティバル」は、08年夏キューバ訪問した仲間が思い立ってから半年がかりで準備されてきましたが関係者の努力で大成功を収めました。

当日のキューバ大使館アンドレス参事官による講演会には、君島一宇CUBAPON代表委員も参加し挨拶を行いました。また、ロビーのCUBAPONブースにはボランティアの仲間も加わり、特性フィデルTシャツが販売されました。

主催者によると、講演会：入場者数 110名、チャリティーコンサート入場者数 750名、延べ850名ハリケーン復興支援金：327,722円。



◆参加呼びかけ。「継続する革命50周年記念大訪問団」

CUBAPONは11月下旬、「継続する革命50周年記念訪問団」を派遣することにしました。コースは2つ。
Aコースは「友好」をテーマに、ICAP（諸国民友好協会）、CTC（労働組合中央組織）、そして全国人民権会議（国会）などでの会談のほか、医療、農業などの現場を視察します。

期日：2009年11月21日（土）～
29日（日）9日間

Bコースは、たっぷり、ゆっくりキューバを堪能する旅です。キューバを肌で感じるコースです。

期日：2009年11月21日（日）～
12月1日（火）11日間

※詳細は、同封チラシをご覧ください。

【2008年度収支報告】（2008年5月2日～2009年5月1日）

収入

繰越金	0	
08会費	207,000	69会員（個人、団体）
会費前受け	13,600	2人（09,10年度）
カンパ①	6,000	3件
カンパ②	43,000	キューバ連帯スリランカ会議 15人
カンパ③	27,000	ハリケーン被害復興カンパ 7件
物資販売	0	コーヒー未収
借り入れ	20,257	IFCCより
計	316,857	

支出

会報印刷代	32,130	会報32,33号
その他の印刷	28,330	チラシ、資料、封筒、振込み用紙等
送料	51,105	会報2号分、他
資料買上げ	24,000	カリブの社会主義XI 30冊
活動費①	25,000	円卓会議会員費、アレイダ受入協賛費
活動費②	105,045	キューバ連帯スリランカ会議参加旅費
カンパ	27,000	ハリケーン被害復興カンパ（ICAP）
07借入返済	24,247	IFCCへ
物頒仕入れ	0	
計	316,857	

キューバ革命50周年記念

フィデルTシャツ

継続するキューバ革命はフィデルとともにあった。フィデルは50年をキューバ人民とともにありました。CUBAPONはキューバ革命とともにあった全ての人民に連帯の意を込めて「フィデルTシャツ」を製作しました。

CUBAPON製
作日本製
製作数100枚限定

ラム酒物資頒布再開

ラム酒頒布を再開しました。5年ものがありませんが、ご利用ください。

※詳細は同封チラシを御覧下さい。

チェ・ゲバラ3ペソコイン入荷

好評で、在庫が無くなっていましたが、入手できましたので頒布を再開します。3ペソ札の追加致しました。

09年度会員登録と会費納入にご協力下さい。

会費振込先名義：日本キューバ連帯委員会

郵便振込み：00170-2-195919

銀行からの振込みの場合：ゆうちょ銀行 019店（当座）0195919 ニホンキューバボランティア会

資料① 勲章授与式におけるフェルナンデス・デ・コシオ大使の挨拶

まず最初に、Cubapon のメンバーの方々のご臨席に感謝したいと思います。

皆さんは今日定例会議を開かれるそうですが、Cubapon の優れた連帯活動にたいする勲章を授与させていただくのに、またとない機会となりました。

1959年1月1日のキューバ革命勝利によって、我々キューバ人は完全な独立と主権を勝ち取りました。

このキューバ国民の歴史的勝利の直後から、アメリカの歴代政権のキューバ敵視政策が始まり、現在に到るまでキューバ革命を壊滅させ国を以前の隷属状態に逆戻りさせるためのありとあらゆる攻撃が行われました。

ほぼ半世紀にわたる、この攻撃者と被害者の対決、世界最強国と低開発の小国の対決のなかで、キューバ国民は世界の多くの国々の国民や組織の連帯を受けてきました。

キューバ国家は、法律に基づいて叙勲制度を設け、他の国々の人達や組織が長年にわたり、傑出した行動を通じて、両国関係発展や国民間の友好親善に重要な貢献をされた場合、そのような人達や組織に勲章を差し上げています。

Cubapon（日本キューバ連帯委員会）は、様々な分野での交流とキューバ革命の過程の実情を積極的に知らせることを通じて、日本キューバ両国間の友好親善、相互理解を深める目的で、1994年に設立されました。

設立以来、Cubapon は、毎年友好連帯訪問団をキューバに派遣して、社会的政治的プログラムに参加し、ICAP（諸国民友好協会）、CTC（キューバ労働者中央組織）との関係を発展させてきました。

Cubapon はまた、体温計や使い捨て注射器などの医療資材を大量にキューバに寄贈してくれました。またメーデーの時期に合わせてキューバで交流を行ってきました。Cubapon は第一回キューバ連帯世界会議、ベトナムで開催されたキューバ連帯地域会議、2008年には、スリランカで開催された地域会議に参加しています。

ほぼ50年にわたりアメリカがキューバに対して続けている犯罪的な不当な経済封鎖に反対して Cubapon が断固とした声明を繰り返し発表していることはよく知られています。また、キューバやキューバ革命に関係するその他の出来事についても、友好と支援の証を示してくれています。

Cubapon は東京で長年にわたり毎年、キューバ音楽・ラテン歌手のあい御影さんの出演で友好コンサートを開催して来ました。Cubapon はまた、キューバ情報を広めるための若者向けのサイトを開いています。その目的に沿って会報も発行しています。

人権問題をめぐりアメリカが行った反キューバ非難キャンペーンにたいしても、それを糾弾しました。

エリアン少年をキューバの父親の手に取り戻す闘いの上で Cubapon が進めた連帯活動も特筆することができます。アメリカで投獄されている5人の英雄解放のための活動も同様です。この問題では、日本での「アメリカに囚われている5人のキューバ人士の解放を求める百人委員会」設立に大きな役割を果たしてくれました。

以前に我が国が被ったハリケーン被害に際しても、貴重な見舞い金を届けてくれました。

2009年は日本キューバ外交関係樹立80周年、キューバ革命勝利50周年にあたります。Cubapon にもキューバへの訪問団も含めて記念のイベントを計画しています。

以上述べたすべてにより、私は大きな満足をもって、本日ここにキューバ共和国国家評議会に代わり、キューバとの友好グループ「Cubapon」への「連帯大勲章」を代表の君島さんにお渡しいたします。

資料② 第一回全国キューバ友好連帯集会（2009年5月23日東京にて開催）最終宣言

1959年1月1日キューバ革命の勝利をもって、キューバ国民は自らの完全なる独立と主権の行使が可能となった。

革命後の50年間、キューバ国民は世界の国々の多くの団体・友人の励ましと連帯を受けてきた。その中には年を追うごとにキューバ国民の大義への支持の輪を広げ、様々な方法で連帯の意を表明してきた日本の人々も含まれている。

50年に亘り、キューバ国民は歴代の合衆国政権による不当な経済・通商・金融封鎖を受けてきた。私たちは、最近バラク・オバマ合衆国大統領が採った措置は建設的ではあるが、その効果は最少にとどまっていると考える。封鎖は依然としてもとのままである。このような犯罪的政策を正当化する口実は政治的にも道義的にもない。封鎖によりキューバ国民は900億ドルを越える損害を被った。それゆえ日本のキューバとの友好グループ・団体は不屈のキューバ国民を飢えと病気で絶滅させようとするその野蛮な政策を即刻終わらせることを要求する。

私達はキューバの指導者達が平等な条件のもとでなら合衆国政府と対話する用意があると表明してきたことを知っている。しかし、それは決して自国の主権と政治・社会体制及び自決権を交渉することと引き換えではない。だから合衆国政府がその封

鎖政策に終止符を打つことになったら、それは私達にとって大きな喜びである。

他方、米国内には5人の若いキューバ人が米国領土からキューバに向けて発せられるテロに対して闘ったという理由で、10年以上も不当に拘束されて獄中にいる。彼らの解放を求めて日本で、「アメリカに囚われている五人のキューバ人士の解放を求める日本百人委員会」が作られた。この日本の連帯運動の努力に、さらに日本の54人の法律家と数人の議員の努力が加わった。アミカス・キュリエの創始者の方々である。人権団体と共に重要な文書を作成し、また合衆国最高裁判所に提出された他の二つの文書に署名した。正当な大義を支持するこの重要な法律文書達成のうえでは、極めて短期間に動員力が発揮されたことが示された。日本で国際的な案件についてこのように多数の弁護士が中心となり、踏みこまれた既決犯の権利を主張したのは初めてのことである。彼らは最初の段階から反則行為に満ち政治的に操作された裁判の犠牲者である。

アミカスに名を連ねた日本の54人の弁護士と10人近い国会議員は、全世界の多数の法律家、弁護士団体、国会議員団体、及び10人のノーベル賞受賞者などの崇高な大義を支持する運動に加わったものである。

ここに集う私達日本人は以下を決意するもので

る：一キューバとの文化・スポーツ交流、キューバへの社会政治的訪問を通じ、キューバ国民への連帯・敬意・友好を維持する。

一引き続き日本国民にキューバ国民の現実ならびに栄光ある革命の50年間に獲得したことについて広く知らせる。

一日本でキューバとの連帯友好のために活動する全ての連帯グループ・個人の活動の調整を進める。

一巨大ニュースネットメディアによるキューバに対する情報封鎖を破るための支援を続ける。

一諸国民の自決権・主権を妨げるあらゆる行為を糾弾し、キューバ国民への封鎖に対する闘いへの支持を休むことなく続ける。

一恣意的に不当に合衆国に投獄されている5人のキューバ人愛国者の解放のための行動を続ける。合衆国最高裁判所が上告を認めない場合、また本年9月12日から10月6日まで予定されている「5人の解放を求める世界月間」に際し、その行動を強化する。

この第一回全国キューバ連帯集会の全参加者は、キューバが獲得した成果、つまり半世紀にわたりキューバ国民が教育、医療、スポーツ、科学などの発展に関して、高い名声を維持することを可能にした獲得物を守りぬく闘いにおいて、キューバ国民と政府への全面的支持を表明する。

キューバ革命勝利50周年記念にあたり、その勇敢な国民に我々の激励を送る。

【連絡】

- ◎ QRコードができました。あなたの携帯からHP（ホームページ）へアクセスできます。
- ◎ CUBAPON携帯メール会員登録をおこなっています。最新情報を自動的にあなたの携帯電話に送ります。登録方法は、HPから。
- ◎ HPがリニューアルされています。是非、ご覧ください。
- ◎ 会員の皆様には、資料としてラウル・カストロの『この50年は人民の抵抗と揺らぐことのない信念の50年であった』を同封しております。

CUBAPONは革命五十年を
フィデルにこだわりました。
CUBAPON会員及び会報読
者は特価となります。
頒布にご協力下さい。



グランマ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

グランマ号(Granma、西:おばあちゃん)とは、キューバ革命時にメキシコへ亡命していたフィデル・カストロが、1956年12月2日、チェ・ゲバラら82名の仲間と共にキューバへ再上陸するのに使った船である。当初カストロはアメリカ海軍のPBV飛行艇か航空機救難艇を購入しようと試みたが、資金不足のため頓挫している。グランマ号はメキシコのトッパンを出港し彼らは無事キューバへ再上陸を果たすが、カストロは事前に再上陸することを発表していたので、上陸後すぐにバチスタの政府軍に包囲されカストロを含む12人にまで減ってしまう。

上陸に使った船といっても、その実態は8人乗りのおんぼろヨットであった。資金が無かった当時のカストロは、中古のヨットを買うのがやっとだったためである。そこに82人もの兵士が乗り込んだために衛生環境が悪化し、上陸する前に彼らの士気は相当下がっていたと言われる。

現在のキューバ共産党機関紙(国営新聞)は、この船を記念し『グランマ』と題されている。

